令和 4 年度東部地区道徳教育研究協議会

春日部市立飯沼中学校

【A 部会(1学年)】

主 題 名 友の幸せを願う 内容項目 B 友情、信頼 教 材 名 「最後の思い出」 (彩の国の道徳「未来に生きる」)



アンケートを活用した 問題意識をもたせる導入



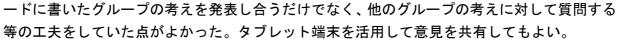
グループでの話合い活動



道徳的価値について考えを深める場面

1 各グループからの発表(ワークショップ型分科会)

- ○板書に登場人物の相関図を提示していたので、とてもわかり やすく、話合いを進めていく上での手掛かりとなった。
- ○友達との在り方について考えるときには、まず個人で考える 時間を適切に取っていたことで、じっくりと生き方について 考えることができた。
- ○3、4人グループの小集団の話合い活動は効果的であり、生 徒は様々な考え方に触れることができた。また、ホワイトボ



- ○「友達を幸せにするとは、どういうことか?」というアンケートを取ってみてもおもしろい。
- 〇発問を精選し、焦点化して話合いを進めていきたい。相手方の思いについて掘り下げていくと、 さらに話合いが深まったと思う。

2 指導講評

- ○発問の聞き方一つで、生徒から様々な反応が返ってくるため、 発問を精選することが大切である。そのためにも、教師は学 習指導要領をよく読んで内容項目を理解し、教材吟味を丁寧 に行う必要がある。
- ○発問例として、①「やる気に満ち溢れている真奈たちを見て、 みんなはどのように感じるだろうか。」②「真奈たちの進める お別れ会の準備がうまくいかないのはなぜだろうか。」③「潤
 - 子のために真奈が大切にすべきだったのは何だろうか。」④「この後、真奈はどうしていくだろうか。」も考えられる。また、価値そのものを問う発問として、「真の友情とはどんなものだろうか。」と問うことも考えられる。自分事として考えられるようにしたい。
- 〇本時の授業で見られたように、生徒に疑問をもたせることも大切である。また、学習指導要領 に記載してあるが、話合いは何のためにするのかということを確認してもらいたい。
- OICT の活用は、今までの取組を生かしながら、効果的なものを互いに共有していくとよい。

